

午後 試験

従来、設問アで要求していた“あなたの立場”や“システムの概要”など、求めていない内容を中心に論述しているものが数多くあった。また、監査手続の論述を要求しているにもかかわらず、予備調査、本調査、報告書作成などの監査手順の論述も散見された。過去の試験のパターンにとらわれず、設問をよく読んで論述することと、監査の基本的な用語を押さえておくことが必要である。

問 1（アイデンティティマネジメントに関するシステム監査について）は、3 問中で最も選択率が高かった。アイデンティティマネジメントにかかわる何らかのシステム導入を既に行っている企業の受験者が多かったのではないと思われる。設問イでは、不正アクセスやシステム障害発生の影響という基本的なリスクの論述を求めたにもかかわらず、要求を満たしている論述は少なかった。設問ウについては、アクセス管理やパスワード管理など、アイデンティティマネジメントの監査対象の一部だけを取り上げている論述が多かった。

問 2（内部統制報告制度におけるシステム監査について）は、タイムリーなテーマであることから選択率は高かったものの、IT 全般統制と IT 業務処理統制の違いや関係といった基本的な事柄を理解できていない論述が多かった。また、個人情報漏えいリスクなど財務報告リスク以外の論述や、設問イ及びウでは、一般論にとどまり、監査手続や留意点を具体的に論述していない解答が見受けられた。

問 3（外部組織に依存した業務に関する事業継続計画のシステム監査について）は、最も選択率が低かった。昨今、事業継続計画の必要性については広く理解されるようになったものの、外部組織の業務を自組織の業務と連動してとらえ、包括的に事業継続を管理するところまで至っている組織はまだ少ないからだと考えられる。設問ウでは、情報システム部門の事業継続計画に対する監査について問うているにもかかわらず、外部組織に対する監査手続だけの論述が多く見られた。